

平成23年度第1回鳴門市地域公共交通会議概要

日 時：平成23年11月16日（水） 13時30分～14時30分

場 所：鳴門市役所本庁舎3階会議室

出席者：別紙

傍聴者数：1人

会議次第

- (1) これまでの市営バス撤退に伴うバス路線再編計画の取り組みについて
- (2) 市内循環線の再編（案）について
 - ・再編方法について
 - ・再編後の運行車両について
 - ・再編後の利用料金について
- (3) 今後のスケジュールについて
- (4) その他

会議の概要

1. 開会

13時30分、開会。

2. 議事

- (1) これまでの市営バス撤退に伴うバス路線再編計画の取り組みについて
事務局より説明。

[北泊線・大麻線・引田線の路線再編について]

委員より、北泊線・大麻線・引田線に関して現在の検討状況について質問があり、事務局より、3路線については、民間事業者での直営運行、民間事業者に市が依頼して運行、市が主体的に運行（地域バス等）というような3案を基に検討しており、それぞれに一長一短あるので、どのような形で3路線の再編を行うかについては、今年度は市内循環線の移行に尽力していることもあり、現在お示しする段階までは至っていない状況であると回答した。

[これまでの路線再編に伴う利用者からの苦情等について]

委員より、これまでの再編（平成21年1月地域バス運行開始～平成23年4月鳴門公園線再編）の中で、利用者から事業主体のほうに移行後の苦情等が寄せられていないか質問があり、事務局より、地域バス（里浦栗津運動公園線・高島線）について

はこれまでの運行の中で、さした苦情等は受けていない。鳴門公園線については現在アンケート調査、利用実態調査の結果集計を行っているところで、これについては以後の公共交通会議等でお示しできると考えているが、現在のところ鳴門公園線の利用における苦情等が入ったということは特段聞いていないので、スムーズな移行ができたものと認識していると回答した。

(2) 市内循環線の再編（案）について

- ・再編方法について
- ・再編後の運行車両について
- ・再編後の利用料金について

事務局より説明。

[利用者アンケートの結果について]

委員より、市内循環線の経路変更に関するアンケート結果について、現在の経路のままが良いと回答（速報値：有効回答の約3割）した人は何か理由があったのか質問があり、事務局より、具体的な理由を求めてアンケートを行ったものではないが、停車しなくなるバス停「中央商店街」近くに病院等もあるため、そのバス停だけを利用されている方と、バス停近傍にお住まいの方が選択された可能性もあるのではないかと回答した。

委員より、アンケートで時刻に対しての意見は無かったのか質問があり、事務局より、最終的な報告ではない速報の段階になるが、一例として「30分で運行できるのであれば変更案が良いが、できないのであれば現行が良い。」ということで、30分の運行を望まれる意見もあったと回答した。

関連して委員より、現在の市営バス市内循環線は11:30～14:00まで運行していない形になっているが、市民の方から「昼の間の運行もしてほしい。」という意見がある。地域バスへ移行したら利便性も考えて、空白時間がないように考えてほしいという意見があり、事務局より、潜在的に昼の時間帯に対する需要が利用者の方にあることは知っているが、市内循環線を効率的で持続可能な設定ということで、1人の運転手が1台のバスで運行できる便数や時間帯を改めて検討した。しかしながら、現在市営バスが昼の時間帯を空白とせざるを得ない理由として、休憩時間・休息時間等を含めた労働基準法の関係等があると思うが、同様の要件が地域バスで運行する際にも発生してくる。便数を増やして中断なく運行し続けることは確かに良いが、人件費等の経費を増やすことが難しい中で、これまでの市営バスの便数及び時間設定等を最低限維持し、経路変更等によって、より利用者の方の利便性が図られるような改善を行っていきたいということで案を作らせて頂いていると回答した。

[市内循環線の利用状況について]

委員より、市内循環線の各便の利用状況について質問があり、事務局より、平成22年3月に策定した「鳴門市地域公共交通連携計画」の中で調査した人数（平均値）になるが、平日の利用としては、9：00便－13.9人、9：30便－10.7人、10：00便－13.4人、10：30便－12.7人、11：00便－15.3人、11：30便は下がり8.3人、その後14：00便－10.8人、14：30便－6.6人、15：00便－6.7人、それ以降少し下がり、15：30便－3.4人、16：00便－4.4人、最終16：30便－2.9人といった人数になっていると回答した。

それに対して委員より、利用されるのは午前に偏っているので、便数を増やすのではなくて最終便を昼のほうに1便持ってくることもアイデアとしては考えられるが、とりあえず案のとおりで運行してみて、今後、改善の要望・ニーズ等も聞いていくというやり方もあるのではないかという意見があった。

[市内循環線の市営バスから自家用有償運送への移行について]

委員より、市内循環線を自家用有償運送にする場合、運行は委託されるのか質問があり、事務局より、現在、里浦栗津運動公園線・高島線についても自家用有償運送の地域バスとして民間事業者に委託して運行している実態があり、市内循環線についても現在のところは民間を活用する形で考えていると回答した。

関連して委員より、現在運行している市内循環線の路線について、道路運送法の4条路線から自家用有償運送になることで、市営バスの他の4条路線と重複していない部分については、路線の廃止又は休止する手続きが必要となるが、4条路線の廃止部分はどの程度なのか質問があり、事務局より、市営バス4条路線としての市内循環線は今年度の3月末で無くなり、その後、自家用有償運送として4月1日以降、間を空けずに運行する予定となっているが、競合部分についてはこれまでも運行していた引田線、北泊線、大麻線が平成24年度は引き続き運行を継続するため、4条路線として運行しなくなる路線区間は発生しないと回答した。

各委員より異議がなかったため、市内循環線の再編について、地域公共交通会議として承認された。

- (3) 今後のスケジュールについて
事務局より説明。

(4) その他

委員より、市内循環線のコースを変えるのは、駅付近の商店で買い物するのに便利になるし、時間的な変更も1分程度ということで良い変更案ではないかと思う。北泊線、大麻線、引田線についてもじっくりと計画を練って頂きたいという意見があった。

議長より、市ホームページへの議事録公開について報告した。

3. 閉会

14時30分閉会。

平成23年度 第1回鳴門市地域公共交通会議 出席者

・委員			出欠
鳴門市自治振興連合会監事	松本 明		○
鳴門市社会福祉協議会会長	多智花 亨		○
鳴門市幼小中PTA連合会会長	吉田 一彦		○
鳴門市老人クラブ連合会会長	山尾 秀男		○
鳴門市企業局次長	近藤 伸幸		○
徳島バス（株）常務取締役営業部長	平野 正治		○
（社）徳島県バス協会専務理事	関本 正康		欠席
徳島県タクシー協会（鳴門第一タクシー（有）取締役）	長尾 春代		○
鳴門市交通労働組合委員長	川崎 貴信		○
国土交通省四国運輸局徳島運輸支局首席運輸企画専門官	佐伯 辰美		○
鳴門市副市長	平野 悦男	会長代理	○
鳴門市政策監兼企画総務部長	三好 誠治		○
国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所徳島国道出張所長	田中 元幸		欠席
徳島県東部県土整備局 鳴門庁舎 次長	小浜 政弘		欠席
徳島県鳴門警察署交通課長	森 利行		欠席
徳島県県土整備部運輸総局交通戦略課課長補佐	東條 揚子		代理者 出席
徳島大学大学院教授	山中 英生	会長	○

事務局

鳴門市企画総務部企画課長	広瀬 高	事務局長
鳴門市企画総務部企画課交通政策室長	津田 英樹	事務局
鳴門市企画総務部企画課交通政策室主事	小椋 豊美	事務局
鳴門市企画総務部企画課交通政策室主事	横手 史和	事務局